

令和4年度資料調査員会議 議事録

司会進行：中野副館長兼学芸部長

記録：文献史料課 大森

会議日時 令和4年7月28日 13:00～13:40

会場 会議室

1 開会

2 特別館長あいさつ（笹本特別館長）

- ・長野県を代表する文化人と一堂に会せることがありがたい。皆さんの役割は重要。長野県史をどうしていくかを共に考えていきたい。その上で資料がどこにあるかが大変大事。先日の学芸研究会で今の文化財行政がどうなっているかの報告を受けた。災害時に資料がどこにあるかはみなさんの力が必要。県史及び防災、いろいろな側面で資料調査員の皆さんの力を借りたい。

3 自己紹介

※担当地区と名前のみ

4 議事

（1）調査員活動について（文献史料課長 村石）

① 報告事項 資料1・2

〔資料2〕

- ・資料6については昨年度定期的に情報を送ってもらったものをまとめた冊子。資料2については概要をまとめたもの。
- ・調査員報告件数は資料の通り。令和3年度は史資料情報47、歴史情報として出版54、諸団体の活動57。コロナ化の中でも、たくさんの情報を送ってもらったことに感謝したい。近世の地方文書だけでなく、近代の役場関係の資料も情報としてあげていただいている。
- ・歴史情報では、雑誌や自治体誌。自治体誌でいうと、栄村や王滝村などの厚いものも出ている。報告書、学校教育関係、近現代資料として、伊那谷のオーラルヒストリーなどの情報があつた。HPでも公開している。

② 依頼事項 資料3・4・5

〔資料3〕調査員活動について

- ・どんな情報でもよいので資料情報をよせてほしい。
- ・地域の刊行物についてなかなか目配りができないようなことを教えてほしい。
- ・各地域の歴史関連施設、歴史団体の活動の様子も教えてほしい。
- ・配布をさせていただいた県史関係史資料所蔵者リストは毎年更新している。個人情報ですので、取り扱いに注意していただきながら、所蔵者が変わったということやもう資料がないなどのことがわかれば赤いペンで修正をしてほしい。令和4年度分については来年の会議、その前でもいいが、文献史料課に提出してほしい。

※令和3年度分は今日お持ちの方は出して行ってほしい。

- ・情報の報告については、原則1か月に1度、資料調査員報告書を作成していただくこととなっている。資料5の様式。
- ・調査報告の活用については、個人情報も含むので適切に管理しつつ、公開できるものについては、当館HPで公開する。レファレンス対応で使うこともある。
- ・調査員報告は毎月が原則だが大変なので、2か月に1度文献資料課メールアドレスに送ってほしい。可能であればメールで送ってほしいが、紙ベースでもよい。

[資料4・5]

- ・調査報告の具体的な項目について書いてあるので、参考にしてほしい。

③ 令和3年度調査員報告について 資料6

- ・またじっくりお読みいただきたい。HPでも公開している。

(2) 各地域の話題（文献史料課長 村石）

①県史編纂の動き

- ・令和3年の11月議会で請願が採択された。信濃史学会が県内の諸団体と連名で請願。その結果当館に現代史担当の専門主事が増え、資料収集を進めている。前の県史が終わったのが平成4年それから30年たつ。県史の史料の所蔵者がなくなっているなどのことは皆さんが把握していることかと思うが、そのあたりの問題をどうしていくかということについて知恵をお借りしたい。

②流出文書の状況

- ・古文書の流出がとにかくひどい状況。
- ・江戸時代の信州の古文書はとにかく多い。県史の中に出ていないものもある。散逸の危険が大きい。1970, 80年代には長野県は地域で史料をコミュニティで守っていくという意識があり、史料の散逸が少ない優秀な県と言われたが、そうした意識も社会事情の変化によって失われてきている。
- ・[資料7]は令和3年度の当館で収集した資料。資料の購入費があるので、できるだけ地域の偏りなく収集している。ここにあるのは、売りに出ているもののごく一部。また、寄贈資料もあるが、倉で持っていることができないなどの理由から、寄贈も増えてきている。すべての資料を守るというのは難しいが、とりこぼしを少なくして、できるだけ地域の調査員の皆様とともに目配りをし、地域の教育委員会とも連携しながら資料の収集を進めていきたい。

③災害時における史料把握

- ・文化財レスキューという冊子については、県史料協で史料を守っていくためにつくったもの。資料が散逸する前に、地域や個人宅で持ちこたえてほしい。そのための啓発冊子。資料調査に行ったときに渡すだけでもよい。地域で活用してほしい。

④その他

- ・配布した長野県史の資料リスト。なかなか個人情報が厳しい中、資料調査も難しいが、わかる範囲で修正等をしていただきたい。

中野：大きく3つの話題があった。どこからでもよいので、意見を出してほしい。

長野県史については議会の請願を受けて、県の中で検討しているところだが、何かあれば出してほしい。

具体的には何か来年動きがあるとするれば、予算要求。やるかやらないかを含めて議論していく。みなさんの方でも何かありましたら、この場でなくてもよい。村石まで出してほしい。

その他の点でどうか？

村石：流出資料についてだが、地方文書収集費が120万程度ある。毎月目録をつくり、どういう所でどういう資料が出ているかということをメールマガジンで情報を教育委員会に月に1度程度送付している。古文書のセーフティーネットのような形で目配りをしている。資料がどこかに出ているという情報があれば、歴史館に連絡してほしい。また、古文書などを地域に置いておけないということがあれば、地域の公文書館、歴史館へということでお声がけしてほしい。

(流出文書で一部購入したものや寄贈を受けたものについての説明)

別紙1は企画展に関連したもので、地域で持てなくなったから寄贈したいというもの。別紙2は関島家文書。有名なお宅で明治時代まで医者の家。静岡県古書店で売りに出ている。1000点近くある。別紙3は池口寺の大変有名な寺。住職に係る小野家にあった資料を寄贈してもらった。別紙4飯田の初代藩主脇坂氏の資料が売りに出ている。信濃史料にものっていない。地域史研究でも活用できる。当館は集まる資料が北信のものが多いが、中南信の資料もできるだけ収集しなくてはということで収集対象リストに入れている。

中野：今の資料説明について何かあるか。このあと実物を見ていただくが。

もしこの場で調査活動の中で困っていることなどがあれば出してほしい。

小柳：県史の資料調査でまわっていて、家の資料はどんな資料なのかと聞かれた。目録は個人名があるからすぐにわかるが、県史に掲載のものがどのような資料なのかは県史を直接見て探さなければならぬから厄介。資料の件数が十や二十何件とあるが、どこからそういう数字を出したのかわからない。史料の件数と資料名がわかるようなデータがあると便利なので、確認してほしい。

村石：手書きの長野県史の収集資料目録をエクセルファイルとしてデータ化したので、具体的な資料名と点数などを照合することで、どんな資料があるのかという把握はできると思う。担当の地域ごとに分けて調査員の皆さんに渡すようにしたい。

5 館長あいさつ（塩沢館長）

今回の内容は新しい話題もあれば、資料の散逸という深刻な課題もある。県史編纂は、県の内部で議論がはじまったばかりだが、今後県内各地の調査員の皆様にご協力をいただかなくてはならないのでよろしくお願いしたい。

6 閉会